

一刀領談



本紙客員論説委員 下條正男

しもじょう・まさお 長野県出身。国学院大学院博士課程修了。1999年から拓殖大教授を務め、昨年3月末で退官。現在は本

紙客員論説委員のほか、島根県立大と東海大の客員教授。島根県の第5期竹島問題研究会の座長を務める竹島研究の第一人者。72歳。

今春、米国のハーバード大で教授の資質が問われる珍事が発生した。授業中、エドワード・シュルツ教授が「日本の膨張主義は危険千万」と批判すると、日本からの留学生が「竹島も紛争中の領土なので、それとどこが違うのか」と質問したのが発端だった。

この問いにシュルツ教授は「何を話しているのかわからない」と小ばかにした笑みを見せたという。そこで留学生は「日本の島である竹島について話をしている。日本の隣国である韓国が日本の竹島を不法に占拠しているのだから、領土紛争地域に含まれていると考える」と主張した。

すると教授は「独島(竹島の韓国名)は韓国の明白な領土で、朝鮮半島の紛争地域となったことはない。この事実、18世紀に製作された日本の地図でも明らかに表れている。日本人たちも竹島を朝鮮の領土と考えているというので、実際に竹島を日本の領土と主張する日本の歴史学者は一人も存在しない」と断言した。

教授の発言は韓国側の竹島研究の影響を強く受けている。それは彼が「実際に竹島を日本の領土と主張する日本の歴史学者は一人も存在しない」とした中に表れている。韓国内では「竹

日本人留学生の奮闘



本文と写真の「竹島問題100問100答」(手前)の転用し、ネット上で公開していた「竹島問題100問100答」への反論=2014年6月

竹島の情報統制を露見

島は韓国領」とする日本の研究者を「良心的日本人」と遇し、その論著などを翻訳して出版に努めている。また、「竹島は日本領」とする研究者の論稿の流入を嫌い、ある種の情報統制をしているからである。

■削除された反論

2014年に島根県竹島問題研究会が「竹島問題100問100答」を刊行した際、慶尚北道の独島史料研究会はよほど自信があったのか、「竹島問題100問100答」の全文を韓国語訳し、それに反論を付けて『竹島問題100問100答批判』をネット上に公開したことがあった。ところがそれは、程なく

して慶尚北道庁のホームページから削除され、今ではその痕跡すら認めることができない。独島史料研究会は、韓国側の主張を論破した日本側の竹島研究が、韓国国内に拡散することに気付いたのであろう。

シュルツ教授の発言は、このような韓国側の事情が反映している。それに「18世紀に製作された日本の地図」を根拠に、「日本人たちも竹島を朝鮮の領土と考えている」としたのは、彼の不勉強である。教授の言う「18世紀に製作された日本の地図」とは、林子平が「竹嶋」に「朝鮮ノ持也」と注記した『三国通覽輿地路程全図』(1785年)のことであろう。

■韓国側のコピー

だが、それには現在の竹島は描かれていないのである。林子平はその3年前、長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」を中心に置き「日本遠近外国之図」を作図していた。その際、「改正日本輿地路程全図」から竹島(現在の鬱陵島)だけを「竹シマ」として描き、そこに「朝鮮ノ持」と注記していた。松島(現在の竹島)は描いていない。それが「三国通覽輿地路程全図」に踏襲され、竹嶋(現在の鬱陵島)を「朝鮮ノ持也」としたのである。「18世紀に製作された日本の地図」は、現在の竹島を「朝鮮の領土」とはしていない。

シュルツ教授の発言は、林子平の「三国通覽輿地路程全図」に対する史料批判を怠り、韓国側の竹島研究のコピーだったのである。その授業に出席し、日本の留学生が孤軍奮闘の反論を試みても、教授自身、「何を話しているのか」分かっていなかったのである。ロシアのウクライナ侵攻以後、「情報戦」が話題になっているが、韓国による情報工作は、ハーバード大の授業にも及んでいるのである。 随時掲載